

令和6年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和7年2月19日(水)14:00～16:00

○場所

オーテピア4階 ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

市民図書館長あいさつ

議事録署名人の選出・・・上村委員

2 議事

(1)令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画(案)について

(2)次期サービス計画の策定について

(3)その他 第四次高知市子ども読書活動推進計画(R7～R11年度)の策定について

3 閉会

県立図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

議事(1) 令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画(案)について

(委員)

何点か話をさせていただきたい。

1点目。全体的にオーテピアは本当によくやっている。特に、YouTubeをはじめ、とても分かりやすい情報発信をしている。利用ガイドなども時代の流れとともに日々進化して、とてもよくやっていると思う。

一宮ふれあいセンターの職員も、本当にオーテピアと風通しが良くなって、分からないことがあっても気軽に聞きやすくなったと言っている。先日、個人情報の件でオーテピアの職員にセンターまで来てもらったが、懇切丁寧に対応していただき感謝している。

2点目は、今の話とも関係するが、マルチメディアデージー図書について。先ほど、事務局から、電子書籍サービスのうち一つが廃止となり、提供できる冊数が少なくなるという説明があった。先日、市内の小学校の特別支援学級の先生とデージー図書について話をした。LD(学習障害)、読字障害の児童を担当されている先生で、学習のためにオーテピアでデージー図書が入ったタブレット端末を借りたそう。そのタブレットを利用して勉強していくに従って、それまで図書室に全然寄り付かなかった子どもが、紙媒体の本が読みたいと図書室へ行き始め、今まで本を全然開けなかった子どもが、デージー図書を入口として本来の図書に触れるようになっていったということだった。

そこで話に出ていたのが、コンテンツというか中身。魅力的なものがあるかどうかということが問題。子ど

もたちに人気があるのは『かいけつゾロリ』のシリーズ。それから、『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』シリーズなどが面白く、それをデイジー図書で読んだことで、もっと続きが読みたい、もっと見たいと学校の図書室に行くようになったということだった。オーテピアにタブレット端末がどのくらいあり、どのくらい貸出しがされているかを聞きたい。読書のバリアフリー化の一番良い例ではないかと思っている。

3点目は、不登校児童生徒の居場所について。私は教育研究所で16年ほど不登校の子どもたちの対応をしていた。今年度第1回の会議の際、教育研究所と連携して不登校児童の居場所づくりを行っていくという話があったので、その後の進捗状況を聞きたい。

最後に、台風等への対応について少し検討していただきたいことがある。このところ東北地方で大変な大雪が続いているということがニュースになっているが、地球温暖化によって気象状況が非常に極端になってきている。冬には雪がたくさん降り、夏には大規模な線状降水帯や巨大台風が発生する。去年の8月30日と31日にかけて台風10号が高知に接近してきた。伊勢湾台風よりも大きいという前評判で、みんな戦々恐々としていた。30日はオーテピア、分館・分室ともに休館になった。だが、職員は出勤しなければいけない状態であったように思っている。夏のことなのでみんな記憶が薄れているかもしれないが、センター長としては自分のところの図書館の女性職員が原付バイクで出勤していたことを把握している。台風で風が強く吹く中、物があたらないうか、転倒しないかなどいろいろ心配もある。センターは避難所になるが、避難所を開設する際には、図書館を閉めて職員も無理しなくてよいなど、基準や線引きがはっきりしていたらよいのではないかと思っている。

(事務局)

バリアフリー図書のマルチメディアデイジー図書は声と点字の図書館に集約しており、提供点数は減っていない。週刊エコノミスト、週刊ベースボールなどの電子雑誌を提供する電子書籍サービスがあり、日本語の雑誌は大体50誌弱読めた。このうち19誌が音声で読み上げができたことから購読契約をしていたが、音声読み上げができる雑誌が2誌だけとなった。2誌のうち1つは「あかるいまち」。それでは使えないので電子雑誌は提供を終了することとなった。マルチメディアデイジーは、引き続き声と点字の図書館とも連携して拡充させていきたい。

(事務局)

不登校児童の居場所づくりという点では、もともと図書館は居場所になっている。居場所づくりというか不登校児童に対する支援については、進捗管理シート P.12「高知市全域サービスの拠点」というシートの左側の主な取組「①学校図書館との連携」の4つ目の項目にあるとおり、教育研究所、教育支援センターへの支援として、事業実態に合わせた団体貸出を開始した。高知市の不登校児童への支援として、教室までは行けないが学校へは行ける児童を対象にしたサポートルームの設置校を3校増やした。そのサポートルームや教育支援センター以外で、卒業生も含めて通所が可能な施設もいくつかあるとお聞きした。

スクールソーシャルワーカーの方は中学校校区ごとに担当をしており、通所もできない子たちの自宅を回っていると聞いている。以前から、図書館の団体カードが1枚あったが、1枚をスクールソーシャルワーカーの方全員で使うのは難しいので、校区分と場所分のカードを全部お作りした。これにより、それぞれのスクールソーシャルワーカーの方が本を借り、届けられるようになった。本がコミュニケーションツールとなって、先生と生徒、また、親子同士のコミュニケーションを図ることができているとのお話があり、そのことがきっかけ

となり環境を整えたところ。今後は利用状況を見て、より使いやすい方法、もしくは、どのように本を持って行けば使い勝手がよいかを話すようにしている。加えて、高知市の不登校支援の提言書の中で、図書館としてできることを提案しており、来年度は保護者に向けた活動も支援していこうという話を現在も続けている。

次に、台風の対応の件。おっしゃるように、今年度は久しぶりに休館をした。基本的な話しかできないが、図書館は休館であっても職員は出勤することが基本。ただ、委託している団体は一定、状況を見ながらというところもあると思うので、それはまたおっしゃっていただければと思う。高知市のふれあいセンターにはすぐに避難所が開設されると思うが、分室はほぼふれあいセンターの中に入っている。避難所が開設されたら休所としてはどうかという意見が、ふれあいセンター長会でも出たことがある。今は高齢者避難のため、避難所開設の判断が早い段階でされている。一方で、学校は通常どおりの状況も見受けられるため、発令されたときの時間帯などを見ながら個別に判断をしている。ラインを引くことで、それ以外の人が使えないなどの苦情につながったこともあるので、少し様子を見ながら開け閉めは考えていきたい。

(委員)

資料2について。先ほど電子書籍の閲覧回数が減ったとお聞きしたが、学校でもタブレットを使用しているので、少し意外な気がした。

去年の図書館大会は、私は自宅で視聴していた。講演者の方が、個人情報の問題や識字教育の必要性、つまり辞書を引くことの必要性などの理由から、今後、紙の文化に戻る可能性が大きいとおっしゃっていたのがとても印象的だった。私も、青少年は特に、パソコンのように字がすぐ出てくるものを使うより、辞書を引く方が勉強になると思う。自分も周りの子などにならってそのように覚えてきた。だが、パソコンの普及で字を忘れるようになってきたので、最近は手紙を書くことが苦痛になってきた。パソコンはどんどん字が出てくるので。逆行するようだが、子どもには文字の教育がとても大事だと実感している。そこは学校が少し指導すると言っていて、反対のことを言っているようで元も子もない。これが、青少年を近くで見ている私の実感。

2点目。これは当たり前のことだが、オーテピアが県民生活に定着したという感じがしている。

あるテレビ番組で、自分が興味を引かれた芸術家のことが取り上げられていた。その芸術家の本を借りたい、その人の人生について知りたいと思ってAmazonで調べたところ、マイナーな本だったので高かった。この本がオーテピアにあることも分かり、すぐに借りに行けば良かったのだが、忙しくて数日過ぎたら既に他の方に借りられていた。やはり皆さん見ているのだなと思った。私と同じようにテレビを見てオーテピアに借りに行く人が結構いるということ。オーテピアがすごく定着していると感じた。

それからもう一つ、駐車場の件。私はなるべく平日の午後に行くようにしているが、土日にはしか行けない知り合いが、土日はすごい行列で入れないと言っていた。実は今日、何台か並んでいたもので、私はひろめ市場に停めてきた。指定の民間駐車場が1時間割引になることを知らない方も多いのではないかなと思った。おそらく、オーテピアに入れば受付に案内が貼ってあると思うので、それを見れば分かるだろうが、知らない方は館内に入るまで分からないので、ずっと行列に並ぶことになる。もう少し周知できれば、もっと利用者が増えると思う。

本を借りに来たときのことでもう一つ。運転免許証とマイナカードの紐づけが3月からできるようになる。図書館のカードとマイナカードも紐づけできるという話を聞いていたので、本を借りるときに紐づけしようとした。少しリテラシーが低い話かもしれないが、私はパスワードを忘れてしまっており、紐づけができなか

った。マイナカードのパスワードは分かっているが、図書館のカードはだいぶ前に作ったこともあり、また、カードをたくさん作るの、情けないことにどれがどれだかパスワードが全然分からない。全部記録しておけばよいことだが、皆さんは覚えているのかなと思った。パスワードを忘れていたために紐づけができず、残念だったので、パスワードを忘れた人のために何か方法があれば知りたい。

最後に、図書館の本棚を見ていたら、「揺れたらすぐここから、本棚から離れて」と大きく書かれたポスターがあった。地震が起きたばかりのときだったのでインパクトがあった。いくら本が好きでも下敷きになってはいけないので、このようなことを掲示してくれているのはとてもよいと感心した。

(事務局)

まず駐車場の件。土日は本当にたくさんの車で、家族連れの方などが来館されている。その車列が延びてくると交通を妨げ、良くないということで、駐車場警備から声を掛け、周辺の民間駐車場の案内チラシを渡している。館内に掲示し、ウェブ・サイトにも載せているが、現場でも声をかけて、周辺の駐車場に誘導する形でお願いしている状況だが、まだ知らない方もいらっしゃるがよく分かった。敷地内駐車場に止められたら一番よいが、そういう意味ではもう少し宣伝をすることもありかもしれないと思った。ちなみに、民間駐車場の1時間分は経費として準備をしている。今では民間駐車場の利用のほうが増えていて、知っている方の中には、はじめから並ばずにそちらに行っている方もいる。

それから、マイナカードの紐づけができなかったということだが、確かマイナカードのパスワードだけで紐づけができたと思う。紐付けができるとマイナカード1枚でいろいろなことができるようになる。導入したのでぜひご利用いただきたい。特にオーテピアは、全国のどなたでも登録ができるので、他の図書館も同様のことをしていれば、地元の図書館のカードとオーテピアのカードの両方をマイナカードに紐付けできる方もいらっしゃると思う。分館・分室でも紐づけができるので、ぜひよろしくお願ひしたい。

(委員)

まず、このオーテピアが次から次へと新しいもの、時代に応じたことに取り組んでいること、また、その取組の細かさに感銘を受けた。高知市の中心地にあるオーテピアが県内全ての図書館の業務に関わり、図書館に対して興味を持つ人や子どもを育てている。このようにオーテピアの図書館の本を読んでいただくことにプラスアルファして、県内の図書館活動の活性化へつなげることが必要だと思う。そこは市町村の連絡会等でおそらく一緒に考えられていると思うが。

高校や大学の学生を活用して読書活動を広めているとお聞きした。市町村では子ども司書がとても好評で、毎年同じ子どもが何度もやりたがって人数を増やしている。オーテピアと市町村で図書館の取組の違いはあると思うが、市町村もそういったところで伸びていることがある。

もう一つ、県の大きな行事に出展し、より多くの方に見てもらうという話が先ほど出ていた。市町村の図書館では、学校の毎月の目標に関する本を持って行っている。例えば、4月に「仲間を大切にしましょう」という目標があれば、それについて30冊くらい本を並べると、必ず子どもが借りてくれる。それを12か月続けることによって、図書館の楽しさを伝える。そういうことが市町村でもできている。

市町村がオーテピアの方法、施策のうち、自分のところでは何なのかを考え、まねて広めていく。このことが県全体の読書活動の普及につながるのではないかと考えた。

もう1点は、電子図書館の利用がなぜ低調になったかということ。おそらく何でもそうだと思うが、子どもた

ちは、最初は興味や関心があるので、新しいものが入ってくるとある程度見る。だが、本当に本の内容を読みたいのかは疑問。自分の好きなものを次から次へと探すような読書活動につなげることができているだろうかということを感じた。それには市町村の図書館との連携も必要かと思う。

もう1点、広報紙コトノハを送っていただいているが、本当に細かくPRしてくれていると思う。これを市町村の方がどれだけ活用し、どれだけ多くの方が見ているか。これを普及させなければもったいないと思う。これほど読書活動やサービスがあるということを知らない人もいると思う。どうしたら県全体に広めることができるかということも今後の課題の一つだと思った。

本当に感動しているので、オーテピアの取組を参考にして、各市町村が自分の地域でできることを考え、町民、市民みんなが寛容な心を持ち、読書の中で人間性を高めていくという大きな目標のもと、オーテピアのやること、また、市町村でできることをこれから考えていきたいと思った。

(事務局)

市町村支援は、以前の県立図書館と比べ、オーテピアが開館してから、支援協力担当が随分力を入れているが、まだ十分に手が回っていないところもあると思うので、そこは今後もしっかりやっていきたい。ただ、オーテピアから一方的に支援するだけではない。例えば、今年度だと、資料2のP.11の左下に、「当館作成のパスファインダーひな形を図書館等に提供」とある。パスファインダーはいろいろなことを調べたりするとき役に立つチラシのようなもの。オーテピアが提供するひな形に自分の館の蔵書などを入れて完成させる形で、それぞれの図書館の特色を出すことができ、利用者にとってプラスになる。オーテピアのパスファインダーをそのまま使うのではなく、このように地元の図書館にひと手間かけてもらって、工夫をしていただく方法を今年度から始めている。そういったことで、オーテピアが持っているノウハウも授けながら、連携・協力して発展していくようにしていきたいと思っている。

電子図書館の話は、新しいもの好きということも当然あると思う。学校の関係で言うと、8月になると利用回数がぐっと下がる。昨年度は月の利用回数が下がり、今年度は昨年度を25%～30%下回るような形で同じように下がっているので、1回使って終わりではなく、繰り返し使っていただけるように工夫をしていきたい。

先ほどの話にもあったが、我々としては、紙の本、電子の本のいずれかから入っていただき、最終的に電子では表現しきれないところは紙の本を利用していただけたら一石二鳥だと思っている。そこは今のタブレットの使い勝手などに応じて使い分けをしてもらい、とにかく本に親しんでいただけるように取り組んでいきたい。

コトノハに関しては相当力を入れて作っているが、話にあったように、まだまだ広報が足りない。広報紙自体の広報が足りていないところも当然ある。この6年ぐらい運営をしてきて、ひととおり目に留めていただける方のところには回っていると思うが、それ以外の方にどう情報を届けるかはこれからの課題でもあるので、そこは、各方面の情報も入れながら工夫をしていきたい。

(委員)

私はよく追手筋を通るが、いつも駐車場に車の行列がある。みなさん結構利用されている。土日や祭日はなかなかの利用があると思ってよいのではないかと思います。今日の報告を聞くと、一昨年よりは数値が少し鈍いかということだが、かなりの飽和状態ではないかと個人的には感じている。

報告の中に、電子書籍の普及とあった。私のような昭和の人間から言うと、紙ベースで見るのが性に合っているところはある。親戚の子どもなどは小さなスマートフォンで漫画や小説を読んだりするが、この細かい文字を見ないといけないのかと思ったりもする。だが、文字に興味を持てもらうのは非常によいことだと思う。

今日の報告の中で、外へ出て行ってPRをしたり、一緒に考えたりといった各セクションと外との協働についての説明があり、非常によいことだと思った。特に、ティーンズ・サービスで民間企業と一緒に取組を行ったということがあったが、さまざまなところで同じようなことができればと思った。

もう一つ、バリアフリーでもさまざまなことを試みていただいており、特に、当事者団体とつながったという報告もあった。ご存じない方も結構いらっしゃるので、そういったことがかけ橋になるということも可能性としてすごくよかったと思う。最初に言ったように、私は昭和生まれなので、紙の書籍を手にとって読むというのが感覚的にはよい。どんどん電子化されている時代なので、なかなか難しいかもしれないが、本が好きだという人たちが増えればよいと思う。

(事務局)

質問ではなかったが、外の団体との連携、協働をみんなが本当に頑張ってやってくれている。バリアフリーサービスもそうだが、特に、バリアフリーの当事者の方に届けるには、来られない人もいるので、さまざまな方法で知らせる必要がある。当事者の方とつながっている方に知ってもらうのが大変効果的で、そういうところも含めて連携を図ることは、今後も続けていかなければならないと思っている。

電子書籍は、さまざまな情報がいろいろな形で好きな時間に取れたらよいということ言えば、紙と電子の片方だけで全部が揃うわけではないので、その人の置かれている状況に応じて選べる場所は大変な強みだと思う。電子書籍の選書もしっかりとやっていきたい。少し利用が下がっているという話があった。学校のGIGAスクールのタブレットに、電子書籍を見ることができるようアイコンを作ってもらっていて、最初に、高知市の校長会へデモンストレーションに行った。それからもう2、3年経ち、校長先生が半分以上代わられているようなので、もしかすると校長先生自身が知らないこともあり得る。来年度は校長先生へのデモを再度したほうがよいということを教育委員会の内部で少し話した。

(委員)

報告を聞いていつも感動している。私はいの町在住で、自宅のすぐ近くにいの町立図書館がある。今日ここに来る前に、そこで司書をしている同級生と会う機会があり、今から図書館協議会に行ってくると言ったら、本当にお礼を言っておいてと言われた。オーテピアの方々には、足しげく町立図書館に来てもらって、いろいろなサポートをしてもらって、本当に感謝していると言っていた。

次の議題に関わるかもしれないが、今、オーテピアでは利用者に向けたサービスが非常に充実してきている。つまり提供側から利用者側へのサービスが充実してきているということで、これは非常にすごいことだと思う。今、次のフェーズに進むとしたらどういうフェーズになっていくのかと想像していた。

それは、提供側と利用者側が協働していくということになっていくのではないかとと思っている。例えば、利用者同士のつながりを作る機会を増やしていくことによって、創発的な取組が生まれ、学びが促進されていくことなどが挙げられるのではないかと。もしかしたら、オーテピアならそろそろ、この提供側と利用者側が協働するというフェーズに入っていけるのではないかと。そういう機会があれば私もぜひ

参画したいと思っている。

例えば、どんな取組があるかを考えた。子ども向けの読書会はよく開催されていると思うし、ときどき大人向けに、講師が本を勧めることもされていると思うが、自分が本当に勧めるこの1冊という読書会を定期的に開催するとか、前で話してくれる人を募集するなど。あるいは、オーテピアで恋しようとか、恋に落ちるような本を選書してその本についての読書会を開催し、マッチングまでやってしまうなど。そんなことも、大人の読書会をキーワードにすれば結構できることがいろいろと生まれていくのではないかとと思っている。

このような提供側と利用者側の協働が生まれていくと、さらにこのオーテピアの価値は高まっていくと思う。ビジネスで言うと、BtoCからCtoCといったことになると思う。LtoU と言うか、ライブラリーtoユーザー、LtoU から UtoU といったフェーズになれば、おそらく日本のどこにもない価値ある図書館になっていくのではないと思う。

(事務局)

今おっしゃったことは、本当に3期に向けての課題でもあり、今の世の中の流れを考えると、3期に入るまでに着手しなければならない課題だと思っている。

読書会に関しては、子どもの本の読書会という大人だけの会も開催しているが、もっと広げてはというご提案だと思うので、そこは検討していきたい。協働で、お互いに高まっていくということ言えば、今、少し課題だと思っているのは、生成AIをどのように活用していくかというところ。図書館職員と言えども、生成AIに関しては、まだ知識が全然追いついていない状況なので、そういった部分で、単なる情報リテラシーではなく、生成AIの活用などについての学習の場を利用者に提供しながら、お互いに高め合っていくことなども少し模索をしていきたいと考えている。それは当然3期では取り組んでいくべき課題だが、3期を待たずして取り組む必要があるとも少し考えており、随時やっていきたい。

(事務局)

難しく考えずにできることがたくさんあるだろうと思う。例えば、読書会の提案をいただいたが、いろいろな人が集い、つながるという意味で、この場所を生かして何ができるかを自由な発想で考えれば、本当はいろいろできるのではないかと話を聞きながら思った。

(委員)

オーテピアの取組については本当に頭が下がる。サービスが多岐に渡っており、資料2を見ても、新規のマークがたくさんついている。その内容も本当に素晴らしいし、日本中に誇れる図書館だと思っている。

以前にも少し言ったが、県の人口がこの前まで70万人だったのが、もう65万人を切りそうな状態。自分が最も心配なのは県内の出生数で、去年は3,130人と過去最低だった。子どもの数自体が少なくなり、図書館へ来る子どもの数がこれからますます減ってしまう。これは大きな課題で、本当に何とかしないといけないと感じる。県の方も、持続可能なスマートシュリンクということで、公共サービスを見直していろいろなものを縮小していくことにお金をかけると言っているが、そういう流れから図書館にも波が押し寄せてくるだろうし、デジタル化したりAIに任せたりしたらよいところもあると思う。本当にいろいろしてくれていて、新しいことも盛り込まれているが、縮小するところやフェードアウトするところも盛り込む必要はないかと少し思った。

それと、子どもの不読率のことが新聞にも出ていたが、公共図書館の運営基準の見直しを行い、公共図書館、学校図書館と、地域の書店との共存を検討するとのことだ。書店がこの20年で半減し、書店のない自治体は全国で1/4くらいになっている。高知はもっと進んでいるのではないかなと思う。そういう中で、分館・分室との交流であるとか、学校図書館との連携強化は、研修を一緒にしたり、内容を高めていったりということで、とても頑張っていると思う。

地域の書店との共存という点でTSUTAYA中万々店との連携が書かれていたが、これも広げていってほしい。(オーテピアの)すぐ隣に金高堂書店があるが、これから同じように連携していくことがあるのかなとも思った。また、本の見せ方、広報、作家とのつながりという面では、書店のノウハウを参考にできる面があるのではないかなと思った。

広報ということでは、私は民生委員をしており、地元の小学校の就学時健診で保護者の方に民生委員の仕事について話をするが、そのときに地域の図書館はすごくよいので利用してくださいと宣伝している。

他にもよいと思ったことが何点かある。読書マラソンと、私のイチ推しがビブリオバトル。参加したくて申込みのQRコードが入ったチラシももらったが、都合がつかず残念だった。ビブリオバトルを開催したことはいろいろな記事で見ることができた。だが、もう一步踏み込んで、この本にこのような推しの言葉があった、参加がどれくらいあったなど、内容の説明があればよかったのではないかなと思った。それから、実際に参加した生徒の学校はもちろんだが、他の学校にも、こんなイベントがあって内容はこのようなだったという広報があればよかったと思った。

それから、よいと思ったことの2つ目が、タイミングを見逃さないということ。中川李枝子さんの追悼展示、朝ドラの『あんぱん』の展示、地元のサッカークラブがJ3に上がったことの応援展示。サッカークラブの選手にも何か協力していただけたらよいのにと考えた。実はこれも私事になるが、私の息子が初期のメンバー。J3に上がるまで本当に長かった。このように地元が盛り上がっているときに、図書館でできることは何かを考えてはどうか。例えば、ホームで試合のときにアピールするなど。(高知)蔦屋書店調べで、三笥選手の『サッカードリブル解剖図鑑』が3位に入っていたが、それは(地元のサッカークラブが)J3に入った影響もあるのかもしれないと思ったりした。タイミングを見逃さずにいろいろなことをやってくださっていると思った。それから、読書マラソンもすごくよい企画だと思った。

それから、私のお気に入りプラネタリウム。小規模プラネタリウム観客動員数が6年連続日本一とのことで大変喜ばしい。これからも協力させていただく。先ほど、本の見せ方の面で書店を参考にしようとお話した。ある書店へ行ったとき、星と星座の図鑑がとても上手に、表紙が分かるように陳列されており、つい思わず手を伸ばして、孫と自分のためにと買って買った。オーテピアではプラネタリウムから離れたところに図鑑があるが、「2階で借りられる」などの表示をしたり、プラネタリウムの近くにそういう図鑑を置いてよいのではと思った。

今の図鑑はすごい。多岐に渡って面白そうなものがたくさんあり、あれもこれもほしいと思う。図鑑そのものの充実はもちろんだが、図鑑特集をしてみてもよいと思う。保育園に勤務していた頃、図鑑はとても人気があった。次々といろいろな種類の図鑑が出る。子どもたちに新しい図鑑を買ってあげたいが予算はどうしようと思いつつ、これはと思ったものを買ったりしていた。こだわりの強い自閉症スペクトラム系の傾向のある子どもも図鑑がすごく好きだった。何時間でも見る。なかには電話帳が好きという子どももいたりした。

学校の図書館が不登校気味の子どもの居場所になっているという話をよく聞く。先生は、子どもは元気に外で遊びなさいと言うが、騒がしい教室が苦手な、外で遊ぶよりも静かにしたい子どももいる。オーテ

ピアや分館・分室、学校図書館は、そうした子どもにとっての居場所、居心地のよい場所になれると思うので、これからも頑張っていたきたいと思う。

あと一つ、はっとさせられたことがある。資料2のP.4の新規の取組として、中央児童相談所を訪問してサービス説明を行ったというのがあった。サービス説明がどういうものかは分からないが、はっとしたのは、児童相談所に関わる子どもや保護者は、本や絵本、読み聞かせとは離れた環境にいることが多いということ。いわゆる児童養護施設やショートステイなど、子どもを預かる施設の図書環境はどうなのか。そういうところへ出前図書館は行っているのかなと思った。

ある意味、本や読み聞かせの派遣は、児童相談所などの施設に最も必要なのかもしれないと思った。連携先に地域の子育て支援センターが入っているが、6人以上19人以下が定数の小規模保育所や、企業主導型保育所というのもある。企業主導型保育所は、企業自体がしっかりしているところとそうでないところがあったりするので、いわゆる一般の保育所、幼稚園、認定こども園よりも読み聞かせの派遣が必要なのかもしれないと思った。でも、あまり出前図書館がたくさんあると職員は大変になるだろうから、読み聞かせの派遣は実現には至らないかもしれないと思いながら、児童相談所の話が出たときにふと思った。

これから紙媒体が多くなるかもしれないという話を聞いたときに、そう言えば北欧などではデジタル化やタブレットの導入が進んでいたが、学力が低下してきたのでまた元に戻そうという流れになってきているようだ。

（事務局）

館内の展示や出前を含め、タイミングを逃さずに司書が企画し実施している。テーマに沿っていろいろな本を集めておくのと手に取ってくれる方も多い。司書がきちんと本を選ぶ力を持っており、キーワードだけでなく、関連する本まで展示できているのは素晴らしいと私も思っている。

そういう意味で、司書の選書の能力は優れているので、児童相談所などあちらこちらに訪問に行き、まずはこんなことができるという説明をさせていただくが、その後、出前図書館に行ったところからブックリストの作成依頼を受けたこともある。図書館には、知れば使えるサービスがたくさんあることがわかると思う。図書館のサービスを知ってもらうことが重要であり、今では連携先の方からこんなことができないかと声をかけられることも増え、そういう意味では、播いた種から少しずつ芽が出てきたとも思っている。確かに職員も忙しい面があると思うが、頼りにされることは大変嬉しいことなので、スマートシュリンクの話もあったが、そういうところは縮小せずにやっていきたい。

（委員）

多岐にわたりサービスが充実しており、私自身もこんなにたくさんのサービスがあるのになかなか使いこなせてないところもあるのはもったいないと思って話を聞かせていただいた。

委員の皆さんから電子書籍の話が出た。10年くらい前に子ども読書活動推進委員をさせていただいたときには、電子書籍は読書には入らないのではないかという審議をするほどだったが、本当に時代の流れは早いし、変わってきたことを痛感している。電子書籍は今後も普及していくだろうと思われるが、委員の皆さんからも、紙媒体の本が復活というか、見直されるのではないかという話があった。私自身は、紙媒体の本が好きだが、皆さんはいかがだろうか。電子書籍を使っている方も多いと思うし、学習障害のある子どもにはデジ図が非常に有効だったという話もあった。ハイブリッド方式でいかれるということだったが、ど

れくらいまで電子書籍を並行させていくかというところが少し気になった。

私の息子は高校生だが、周りの高校生を見ても、電子書籍で本を読んでいる子はあまりおらず、小説の文庫本をリュックの中に入れていて、時間があるときに読むといった子がほとんど。主に電子で読んでいるのは漫画。学校から電子辞書は買ってほしいとのことだったので、電子辞書は持って行っている。確かに私も、英語や古文の辞書を持って行ったりしてとても重かったので、辞書は電子辞書が便利だと思った。電子書籍は、何となく読んだ気がしないという感想を言っていた。私も紙の本のほうが達成感がある。子どもたちに絵本を読む機会も多いが、やはり絵本は電子書籍だと少し難しいと出版社の方に聞いたことがあった。作家さんと話をする機会があり、絵のインクの出方や紙の質感には非常にこだわっているということだった。手に取ってその全てを子どもたちに感じてもらい、その世界感を楽しんでもらいたいが、電子書籍だとなかなかそこまで伝えるのは難しいとおっしゃっていたので、絵本はやはり紙媒体のものを手渡していきたいと個人的には思う。

あと、読書マラソンの取組を児童サービスの中でされており、子どもの対象年齢や、「多様な本」とあるが、こういった本を読まれたのかをお聞きしたい。

(事務局)

冬の読書マラソンについては、対象年齢は0歳から小学校6年生までを、0歳から3歳まで、4歳から6歳まで、小学校1年生から3年生まで、4年生から6年生までの4グループに分けて、この年齢層にはこんな本というふうに何冊かずつ選んで展示していた。その中から自分が読んだ本のタイトルと面白かったところや、心に残った場面などを読書マラソンのチラシの裏面に書いてもらうようにし、10冊全部書いてカウンターに持って来てくれたら、プレゼントを渡すことにしていた。そのプレゼントは、図書館で買っている本のブックカバーや本の不要になった部分などを使い、図書館の利用カードが入れるように職員が手づくりしたカードケース。

対象年齢のグループ分けはしたが、小学校1年生から3年生までだから4歳から6歳までの対象の本はだめということではない。グループ分けは目安で、好きな本を読んできてという、少し緩やかな形でやっていた。

(委員)

10冊全部を読むということか。

(事務局)

10冊達成したら持ってきてということ。先着50名分の用意をしていて38名だった。

(委員)

4年生から6年生までだと、割と読み物とかが多い感じだったか。

(事務局)

具体的に読んだ本の把握はできていない。最初は、0歳から6歳までの小さい子が割と多かったが、それは親が子どもに勧めたようだった。

(委員)

読み物10冊だとなかなか大変だと思ったので、対象年齢とか、どういう本を選ばれたのかというところに興味があった。

(事務局)

広報を開始してから実施までの期間が短かったので、その辺の宣伝不足が少しあったのではないかといいことも、担当職員は言っていた。

(事務局)

今年度の県立図書館の予算では、資料購入費全体1億円のうち電子書籍への充当分が1,200万円弱。従前から導入している高知県電子図書館は貸出型で、提供を継続するために毎年度ライセンスやコンテンツの料金が必要な分がほとんどを占め、そういった部分を維持していく予算が一定必要となっている。令和5年7月に導入した KinoDen は買取型なので、一度買えばずっと使えるが、1冊あたりが平均すると1万円近く、紙の書籍の2倍、3倍くらいの値段がするので、数を増やすことはバランスを見ながらになってくる。全体として、従前、紙の書籍の年間の出版点数は8万点くらいと言われていたが、それがもうここ数年で、おそらく7万点を切っているのではないかといいくらい減っている。そういった関係もあって、県立図書館としても紙の本の予算の一部を電子書籍に振り分けていく形で、予算要求もデジタル化の特別枠があるので、そういったこともうまく活用しながら置き換えていく形にしている。タイトルについては、電子と紙で当然重複もあるが、そこは全くダブらないように整理をすることまではしていない。そういった形で少しずつ電子も増やしながら、全体の資料費の額は何とか維持していきたいという予算の計画をしている。

議事(2) 次期サービス計画の策定について

(委員)

本来は皆様の意見を伺わなければいけないが、次期計画作成に関して、これだけはいう意見がある方は挙手をして、発言をお願いしたい。

まだ先のことのように思うが、本当にすぐ次期計画の策定をしなければいけない時期になっているので、よろしくお願いいたします。

話題提供の形で少しだけ。この1枚目、表側の地域の課題の最重要課題として人口減少が書かれている。つい先日、県はスマートシュリンクの考え方を前面に出し、さまざまな改革を行っていくことを表明した。今の計画の残りの実施期間に関して、また、次期の計画作成に関しても、その枠組みがどうしても関係してくるし、意識せざるを得ないと思う。その中でやはり図書館の活動、つまり利用者への情報の提供。それから、情報リテラシーの向上の支援などについてはシュリンクさせてはいけない。いろいろな施策、そして、さまざまなレベルでシュリンクはしてくるだろうが、それに対して我々の図書館サービスは、実は拡大しなければいけない状況にある。何とかバランスを取って、うまく利用者の期待に応える計画を作成していただきたい。本当の意味で、やはりスマートなサービスができることが大事だと思う。人口の動態、それから、経済の動向で縮まらざるを得ないことが事実だとしても、心のあり方、心がシュリンクする方向に向かうようなサービスに

なっては非常に問題だと思う。そのあたりを一番大切に考えて計画を作成していただきたい。

議事(3) その他 第四次高知市子ども読書活動推進計画(R7～R11年度)の策定について

(委員)

事務局は本日の委員からの意見を、サービス計画の進捗管理を行いながら、今後の図書館運営に生かしていただきたい。

16時00分 協議終了

令和6年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

令和7年2月19日（水）

オーテピア 4階ホール

○委員

役 職 等	氏 名	備考
高知市立潮江東小学校長、高知県学校図書館協議会会長	竹 崎 有 紀 子	欠
高知市一宮ふれあいセンター長、元小学校長	上 村 国 之	出
横浜小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 元高知市青少年育成協議会理事	西 尾 敦 子	出
津野町教育長	久 寿 久 美 子	出
フリーアナウンサー、子育て支援員 第四次高知県子ども読書活動推進計画策定委員	花 房 果 子	出
元高知市保育園長	神 野 万 里	出
特定非営利活動法人こうち企業支援センター理事長	田 村 樹 志 雄	出
高知大学名誉教授	加 藤 勉	出
高知工科大学情報学群長	篠 森 敬 三	欠
特定非営利活動法人高知市身体障害者連合会会長	中 屋 圭 二	出

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名	備考
高知県立図書館	館 長	杉 本 幸 三	
	副館長	岡 村 祐 人	
	専門企画員（司書育成・サービス推進担当）	尾 形 千 晶	
	企画調整課長兼チーフ（企画調整担当）	吉 村 幸 男	
	チーフ（総務担当）	浅 川 美 佐	
	チーフ（図書利用担当）	谷 岡 祥 子	
	チーフ（情報資料管理担当）	渡 邊 哲 哉	
	チーフ（支援協力担当）	鈴 木 章 生	
	企画調整課 司書	八 田 裕 子	
	企画調整課 司書	上 岡 真 土	
	企画調整課 司書	宮 本 直 美	
	企画調整課 司書	戸 苅 綾 子	
	企画調整課 主任	那 須 真 紀	
高知市民図書館	館 長	高 石 敏 子	
	副館長	横 川 良 明	
	図書利用担当管理主幹	武 井 一 仁	
	図書利用担当係長	川 村 紀 代	欠席
	図書利用担当係長	川 村 美 里	
	資料管理担当係長	徳 平 晶	
	管理担当係長	下 元 美 和	
高知市 図書館・科学館課	課長	弘 瀬 友 也	